

パラグアイ経済トピックス（2023 年 10 月）

1 パラグアイへの直接投資の増加

（１）１０月３０日、パラグアイ中央銀行は、最新の直接投資に係る報告書を発表。同報告書によると、２０２２年の世界全体の純流入額は対前年比１２％減少したが、南米では同７３％増加となった。

（２）パラグアイでは、２０２２年の純流入額は対前年比プラスで、７億２,５００万米ドルに達した。２０２２年の純流入額は、前年の数値を５億４,０００万米ドル上回り、総流入額は２２億３,０００万米ドル、総流出額は１５億５００万米ドルであった。

（３）資金流入の主な内訳は、利益の再投資と企業間融資であった。経済活動別では、金融仲介、商業、化学製品の生産、油・金属製品の生産部門で純流入が増加したが、通信、畜産、運輸、機械・設備部門の減少により当該増加は緩和された。

（４）この結果、２０２２年末の直接投資残高は７６億６,６００万米ドルとなり、対前年比で５％増となった。直接投資残高に占める割合が最も高い経済活動は、商業が１８％、金融仲介が１６％、油の製造が１１％、運輸が７％であった。

2 衛星インターネットサービス：パラグアイ政府がスターリンク社を認可

（１）１０月８日、ペニャ大統領はスターリンク社に国内の衛星インターネット事業に係る認可を与えたと発表した。

（２）イーロン・マスク氏が所有するスターリンク社がパラグアイに進出し、衛星インターネットサービスを提供することとなる。スターリンク社は、同氏の所有企業の一つであるスペースＸ社が開発中の衛星インターネットサービス。地球低軌道上の衛星コンステレーションを通じて高速ブロードバンド・サービスを提供する。

（３）ビジヤテ情報通信技術大臣は、同社の参入は、パラグアイに高品質のインターネットサービスを提供することとなる、デジタルデバイドを縮小する重要なマイルストーンであり、これは、教育、保健、治安、経済発展に影響を与えると述べた。

（４）同サービスは現在、ブラジル、チリ、メキシコ、ドミニカ共和国、プエルトリコ、ジャマイカで利用可能となっている。これまでのところ、全世界で１００万人以上の加入者があり、これには消費者顧客と企業顧客の両方が含まれる。

3 米国のポータルサイトがパラグアイのマキラ産業に注目

（１）デジタル・マーケティング会社 Latam FDI 社は、１０月１日付のウェブサイトにおいて、パラグアイのマキラドーラ産業が１０億米ドル以上の投資を誘致していることを紹介した。また、同産業における雇用の創出と、２０２３年の残り数ヶ月間の良好な予測を強調した。

（２）米国アリゾナ州ツーソンを拠点とする Latam FDI 社は、２０２３年上半期末時点でパラグアイのマキラドーラ産業への投資総額は１０億米ドル強に達し、生産能力は史上最

高レベルに達したと指摘する。また、全国マキラドーラ輸出産業評議会（Cnime）によると、輸出製品の内訳は、自動車部品が２７％、衣料品部門が２０％のシェアを占めているという。

（３）その他の重要品目は、食料品が１５％、アルミニウムとその製品が１３％、プラスチックとその製品が６％である。輸出先については、ブラジルが全体の５７％、アルゼンチンが１２％、米国が７％、オランダが６％、その他ウルグアイとチリも含まれている。

（４）この資料では、こうした高いレベルの投資が、マキラ産業におけるこれまでで最も高いレベル直接雇用（22,319人）を生んでいるとされている。一方、間接的には、マキラ産業の活動が10,713人の雇用創出に貢献したと推定している。

4 メルコスール・シンガポールF T A関連会合

（１）１０月１７日、メルコスール・シンガポールF T Aの首席交渉官会合がアスンシオンで開催され、物品、サービス、投資市場へのバランスの取れた効果的なアクセスを通じた相互関係の強化に向けた完全なコミットメントを再確認した。

（２）同F T Aにより、シンガポールは、その物流と金融のハブとしての地位により、パラグアイの東南アジアへの輸出の玄関口となる。シンガポールは、その一人当たりG D P（約６万米ドル）と食料輸入の必要性から、興味深い潜在的市場である。

（３）同F T Aの交渉は、パラグアイのメルコスール議長国時代の２０２２年７月２０日に完了が発表された。

5 アラブ首長国連邦外相のパラグアイ公式訪問

（１）１０月１日、ペニャ大統領とラミレス外相は、パラグアイを公式訪問したアラブ首長国連邦のアブダラー・ビン・ザーイド・アル・ナヒヤーン外相と会談した。

（２）会談では、二国間関係の強化、共通の関心分野における協力強化のための戦略、１１月に同国で開催される気候変動に関するC O P 2 8についても話し合われ、双方は、相互利益のための関係強化、貿易拡大の重要性で一致した。

（３）また、会談では、今後１５日以内に、アラブ首長国連邦の金融関係者の技術者、空港インフラ開発及びその他のプロジェクトの専門家が、パラグアイを訪問することが合意された。

6 ドイツ食品見本市へのパラグアイ企業２２社の参加

（１）１０月１１日に閉幕したドイツの食品見本市 ANUGA2023 に、パラグアイから２２社が参加した。今次見本市の結果、２０２４年には、ピーナッツ、ゴマ、チア、米や飲料の分野において、5000万米ドルのビジネスが見込まれる。

（２）専門家によると、ピーナッツ、ゴマ、チア、米などの穀物については、来年の市場見通しは良好とのことである。また、今次見本市では、ピーナッツ等の豆類、穀物、フルーツジュース、濃縮果汁について、少なくとも６つの新市場が発見されたとのこと。メル

コスールやカリブ海諸国の市場においては、アルコール飲料（ビール等）やレディ・トゥ・ドリンクに対する外国企業の関心が非常に高くなっている。

7 パラグアイからの輸出市場の多様化

（１）商工省投資・輸出局は、本年８月末までに産業界が新たに６つの輸出市場を開拓した旨発表した。これは、輸出先、企業、製品の多様化が進んでいることを反映している。

（２）同局関係者は、製品と輸出市場の多様化が進むことは、経済の高度化にとって重要であると述べた。多様化の進歩は、輸出先の閉鎖や、経済的、政治的、気候的な理由で起こりうる伝統的製品の業績低下といった悪影響に対する回復力を高めるからである。

（３）本年８月末までに、約５６トンの牛モツが 121,580 米ドルでバルバドスに輸出され、約７５トンと５０トンのピーナッツがそれぞれ 105,150 米ドルと 78,300 米ドルでフィンランドとルーマニアに輸出された。フィリピンには、15,857 トンのエタノールが 12,033,000 米ドルで輸出された。また、バイオディーゼル 3,458 トンがベルギーに 4,235,618 米ドルで、木材パネル３４トンが米国に 54,038 米ドルで、アルゼンチンに鋼製ポンプ６トンが 88,877 米ドルで、ローリング・ブリッジ（クレーン）６トンが 89,783 米ドルで輸出された。